

Conferencing News & Analysis-- Independent & Unbiased Perspective Since December, 1999

電話会議・テレビ会議・Web 会議専門ニュースレター 展示会レポート 2004 年 4 月

創刊 1999 年 12 月 8 日 発行/編集: 橋本啓介 k@cnar.jp Copyright 2003 Kay Office All rights reserved.

展示会レポート

Broadband Summit 2004 Annual Summit Meeting on the Applications of Broadband Internet

日程: 2004 年 4 月 19 日、20 日

場所: ロナルド・レーガン国際貿易センター
米国ワシントン D.C.

アメリカワシントン DC で、Broadband Summit 2004 が開催された。今回の BB2004 は、展示会とセミナーセッションの構成で、4 月 19 日、20 日と 2 日間開催された。主催したのは、昨年で終了した、アメリカの TELECON を 22 年間、主催してきた Patrick S. Portway 氏(写真下)。TELECON は、テレビ会議、電話会議などの専門とした有名な展示会。1980 年の始め頃から開催されてきたが、2003 年 4 月の開催の中止をきっかけに残念ながらそれ以降開催の予定は聞いていない。編集長橋本は、1999 年、2000 年と参加し、いろいろな製品をこの目でみて触って、いろいろな質問をした記憶がある。



セキュリティの厳しいアメリカ

本題に入る前に、アメリカ入国時に気づいたことだが、アメリカ全体的に最近では空港や重要な建物にはセキュリティチェックが非常に厳しい。空港の入国審査では、人によって指紋や顔の写真をウェブカメラで一人ずつ撮影していた。私は幸い(?)、滞在の目的と何の仕事をしているのかと聞かれたただけだったが。

また、今回の会場入口では、セキュリティガードがいて、入口で身分証明書を見せてくださいと言われ、パスポートを見せ、持ち物を空港にあるような赤外線カメラに荷物を通し、チェックを受けた。また、今回ニューヨーク経由でワシントン DC に入ったが首都圏 30 分以内の飛行機内では席から立ってはいけないという法律があり、機内でも厳重な様子があ

かがわれた。

Broadband Summit 2004 本論へ



VIP ディナー

最初の 19 日は、VIP ディナーとして、リセプションとディナーが続き、インターネットの生みの親である、ビント・サーフ氏の特別講演。ブロードバンド普及を阻むものというテーマで、FTTH のコスト高やパケットの仕組みについて説明。短い時間の中、同氏の講演があった。

20 日には、ブロードバンドをどう国内(アメリカ)に普及させていくのかという観点から、米国下院議員の Rick Boucher 氏を始め、メーカー、サービスプロバーダー、大学教授など 29 名の講演者による発表があった。

また、テレビ会議、ウェブ会議業界関連の講演者としては、ポリコム CEO Bob Hagerty 氏や、Arel CMO の Michelle A. Blank, Ph.D. の講演もあった。

会場では各社の展示、業界関係では、ポリコム、ソニー、AREL, Spectel, VBrick などが展示していた。

VoIP とセキュリティの問題

米国下院議員の Rick Boucher 氏の朝食を交えた講演は、予定より若干遅れて朝 8 時から始まったが、ブロードバンド環境では、VoIP のサービスが普及していきだろうし、キラーアプリケーションになりえると述べ、たとえば、月額 20USD 程度で、VoIP が無限に利用できるという方法がとればベスト

だとの見方を示した。また、VoIP が普及した場合セキュリティの問題が重要になるとの指摘、そして、今後さらにブロードバンドを普及させていくためには、遠隔医療、遠隔教育などの新しいアプリケーションの開発と促進も重要ではないかと講演していた。

ブロードバンドは経済力向上への原動力 国際競争力には必須

つぎに、ケンタッキー大学学長の Dr. Lee T. Todd 氏の講演では、ブロードバンドの普及は経済力向上への原動力として必要であり、ブロードバンドへのアクセスがあるか、ないかで今後経済格差が生じる可能性があるとの予想を示した。

また、諸外国のブロードバンドの普及に言及しながら、グローバルマーケットで競争に伍していくには、ブロードバンドは必須だと指摘。また、最近のケンタッキー州でのブロードバンド関係の動きについて説明し、ケンタッキー州では、ブロードバンドを規制する法律を禁止する法律が最近州議会を通ったそうだ。

ケンタッキー州では、地域的、経済的なギャップを乗り越えるためにブロードバンドは必須とみており、さまざまな取り組みが、遠隔教育などで行われている。

例えば取り組みの一つとして、図書館での貸出本をオンラインで申込、宅配などで翌日配送するというのがある。また、健康関係の各種統計でケンタッキー州は全米でワーストに入っているそうで、通信費などの問題もあるが、ヘルスケア分野に対してブロードバンドを適用していくことを検討している。技術の問題よりも規制の問題がブロードバンド普及を考える上では大きいと同氏の考え。

ブロードバンドのコモディティ化が進む 規制が技術の現状に対応しきれていない 投資環境の醸成と、利益が共有できる環境が必要 アプリケーションの開発が急務

また、その他の講演では、ブロードバンドはコモディティ化していると述べた、ブロードバンドサービスを提供する Hughes Network Systems の John Kenyon 氏。同氏は、ブロードバンドサービスでの顧客の囲い込みの難しさを指摘。た

とえ利用契約を取ったとしても、最初の1ヶ月で解約されたり、あるいは最初の契約期間が終わる時に解約されたりといったことが多く、ロイヤリティが低いのが課題という。しかし、安くクオリティの高いサービスを提供することは重要と考える。

Verizon の Thomas J. Tauke 氏からは、VoIP のブロードバンドアプリケーションは、電話とは違うので、政府の政策担当者は、ネットワークの現状を知るべきだとの厳しい指摘があった。法律などの規制は、現状を反映した規制であるべきだが、現状は、現在の技術の動向に対応しきれていない問題があり、古いルールを新しい現状に当てはめているだけだと指摘。

さらに、光アクセスなどを視野にいれた、インフラへの投資が重要で、そのためには投資環境の醸成と、今後政府の助成、規制のあり方が、FCC を中心にして議論されるところだろうと今後の展開を示唆した。

その他の講演者も政府の規制問題を言及する発言が多かった。現状を反映した規制となっていないとの見方の中で、BellSouth の William Smith 氏は、FTTC と FTTH はそれぞれ違う法律が適用されているとたとえて出した。そういった現状にそぐわない規制のあり方はブロードバンドの普及から考えると問題ではないかと力説。情報化社会には、先進的なインフラが必要と強調した。

さらに、Internet2 の社長兼 CEO の Doug Van Houweling 氏は、第二次大戦後、技術革新が経済発展を推し進めていく上で重要な要因（経済発展を推し進めた要因の50%は技術革新という言い方だった。）であったため、技術革新という意味でのブロードバンドの普及は今後重要な意味を持つという趣旨の話があった。

そして、ブロードバンドに対しての投資を進めていく中で、その投資による利益を共有できる環境を作り出す必要があるとの見方を示しながら、アプリケーションの開発の重要性を力説した。また、アプリケーションのひとつとして、3次元にシミュレートされた、バーチャルミーティングルームの可能性についても言及した。

次に、米国教育省で教育に使われる技術について担当する、Susan Patrick 氏の講演では、時間の都合上5分程度の講演となったが、今後はブロードバンドアクセス（ブロードバンドインターネットに接続することができるということ）の問題が重要と見る。教育分野では、e-learning が重要なアプリ

ケーションになると思われるが、教育分野だけでなく、さまざまな分野で、ブロードバンド政策を策定し遂行していく重要性を指摘した。

The New World Symphony Demonstration 次世代ブロードバンドを使った演奏

Internet2は、世界 206 の大学が参加する、次世代インターネット技術の開発・検証を目的とする組織。会場では、遠隔演奏指導のデモを、次世代ブロードバンドインターネットを使い実演した。ワシントンDCの会場には、10 名ほどの若手指揮者と演奏者が音楽を演奏し、その様子を見ながら、シアトルにいる先生が指揮者などを指導しアドバイスを遠隔で行うという内容。

遠隔であっても、スムーズに演奏指導などが行えるところを披露。先生が指揮者に対して、肩がこわばっている、もっと肘あたりをリラックスさせて肘から手先にかかる腕で指揮棒を振った方が、良いというようなアドバイスをしていた。将来の遠隔教育の一面を、垣間見せる非常に興味を持てるデモであった。(これは写真を撮っておけばよかったと今に思う。)

遠隔医療—1967年ボストンの交通渋滞を避けるのが発端

また、遠隔医療の関係で講演した、グローバル・テレメディスン・グループの社長兼 CEO の、Jay H. Sanders 氏は、遠隔医療 (Telemedicine) の考えの発端は、1967 年ボストンで、交通渋滞を避けるのが最初の考えの発端になったと紹介。患者の搬送により、搬送費のコスト削減効果が大きいと見た。

メーカー講演、ポリコムCEO ボブ・ハガティ氏

ポリコムのCEO ボブ・ハガティ氏は、講演の冒頭で、ちょうどインドへの出張から戻ってきたばかりと述べ、インドの Reliance Telecom や中国の China Unicom での同社のビデオテレフォニーに対する取り組み状況を説明。

さらに、今後はユニファイド・コラボラティブ・コミュニケーション (Unified Collaborative Communications) は、今後のコミュニケーションの方向性を示が、その中で、テレビ会議において、独自技術よりも標準化された技術の重要性を強調

した。また、ブロードバンドは生産性の向上にとって重要と指摘。

「技術はある、アプリケーションはここにある、あとはそれをつなぐ“パイプ”があれば可能性は広がる」とブロードバンドへの期待を示した。

講演前にちょっとお話させていただく機会が持てた。ポリコムというと、電話会議製品もよく知られているが、一般の人から見るとテレビ会議メーカーと呼ばれることが多いような気がする。



ポリコム CEO ボブ・ハガティ氏

しかし、ハガティ氏と話しをしてみると、同氏の頭の中ではすでにテレビ会議メーカーという意識ではなくて、適切な言葉が見つからないが、同氏の言葉を借りて言えば、ポリコムは、電話会議やテレビ会議端末メーカーから脱皮した、“ユニファイド・コラボラティブ・コミュニケーション”ソリューションプロバイダーとして自身の会社を認識しているという印象を持った。

アメリカのブロードバンド状況

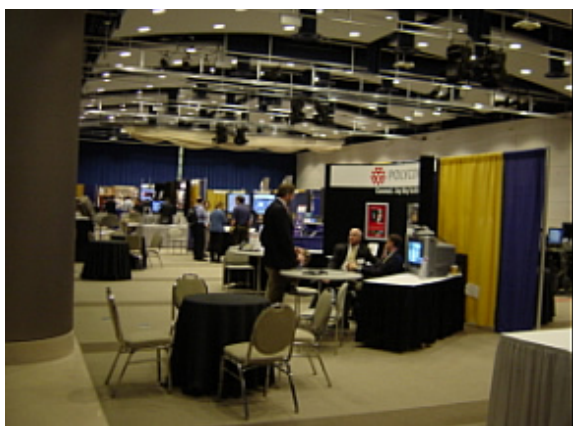
その他、他の講演者などからアメリカのブロードバンドのトレンドは以下のような説明があった。

- ・アメリカ人口の24%がブロードバンドユーザー。
- ・DSLモデムとケーブルモデムの差が縮まってきている。
- ・教育レベルが高いほどブロードバンドの利用割合は高くなる。
- ・アメリカの10%のユーザーブロードバンドを利用できないエリアに住んでいる。
- ・ダイヤルアップユーザーの6割は、今のところブロードバンドに移行する必要性を感じていない。

- ・ダイヤルアップユーザーのインターネットの利用割合は、ブロードバンドユーザーのそれに比べて低い。
- ・ダイヤルアップユーザーとブロードバンドユーザーのインターネットの利用の仕方に違いがある。ブロードバンドユーザーは、インタラクティブな利用形態が多い。

ちなみに、中国では、現在1100万のブロードバンドユーザーがいる中で、近いうちに倍になる可能性があるという。日本については、ADSLの急激な伸びとVoIPの拡大、その中のYahooBBなどを含めた市場動向などの発表がされていた。

展示ホール



展示会場(写真を撮った時間が悪かった)

展示ホールでは、業界関係では、ポリコム、ソニー、Arel、Spectel、VBrick、InterCall、マイクロソフト(LiveMeeting)などが出展しており時間の関係上全て見るができなかったが(展示は20日のみでそれと平行して講演が行われていた。編集長は講演を中心に参加した。)

ポリコムでは、新製品の VSX3000、ソニーは、PCS-1 と PCS-11、Arel は同社の開発したウェブ会議ソリューション、VBrick は、ストリーミングサーバーの展示とデモを行っていた。Arel、Spectel、VBrickなどは日本市場に非常に興味を示していた。

また、アメリカの業界団体である、IMCCA (<http://www.imcca.org>)も出展していた。IMCCA は、テレビ会議、ウェブ会議、電話会議の普及を目指す任意団体だが、会長 S. Ann Earon 博士、ディレクターの Carol Zelkin 氏と話しをしたところ、今後日本とも連携した普及活動を行いたいと抱負を



述べていた。この機会に編集長は IMCCA の個人会員になった。ちなみに個人会員年会費は、75USD。法人会員もある。

また、出展はしていないが、参加している業界系のメーカーや販社の方々も来場していて、意見交換等を行う機会ももてた。話題はウェブ会議が多く、「ウェブ会議は新しいコンセプトだが、マイクロソフトやシスコシステムズなどがウェブ会議等の製品を扱う始めたため認知度は高まり、今後ウェブ会議の導入が多く企業で進むのではないか。」と期待を込めて話す、WebExとマイクロソフトのLiveMeetingをリセールする業界の人もいた。

取材後感想

一番印象に残った言葉は、ケンタッキー大学学長の Dr. Lee T. Todd 氏の、“ブロードバンドは経済力向上への原動力”、“国際競争力にはブロードバンドは必須”という言葉だった。同氏の発表の中で、“ケンタッキー州では、ブロードバンドを規制する法律を禁止する法律が最近州議会で通った。”ということに、思わず“アメリカらしい”と感じた。

商業的には、ブロードバンドは大きなビジネスチャンスとの見方があるが、政府や学識経験者などから見ると、ブロードバンド政策の策定に対する提言、現状の技術に対する時代遅れの政府規制に対する批判などからすると、ブロードバンドは、国力の源泉になるとの見方を持っている。

また、そういった政府や学識経験者などの見方を裏付ける現状としてアジアでのブロードバンドへの急激な普及、そして中国の経済的な台頭が上げられると思う。

(終わり)

以下会場で撮影した写真。



ソニー PCS-11



Spectel 音声MCU等メーカー エンタープライズ・セールス担当

CAN リポート・ジャパン
編集長 橋本 啓介 k@cna.jp

(CNA Report 展示会レポート 2004年5月)



AREL 右から 製品戦略 VP Ofer Shapiro 氏、CMO Michelle Blank 氏、左側2名は社員

CNA Report

Conferencing News & Analysis

Independent & Unbiased Perspective
Since December, 1999
By Keisuke Hashimoto



VBrick EtherneTV